

平成 21 年度 看護学教育ワークショップ 参加報告

日時：2009 年 10 月 13 日～10 月 15 日

場所：千葉大学

内容

特別講演

13 日 14：30～

小山田恭子（文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官）

『大学教育におけるカリキュラム検討の動向』

内容：大学における看護系人材養成の有り方に関する検討会の第一次報告について

1) 現状

課題：学生の多様化の進行。学士課程での学習成果の明確化が要請される

能力の多様化，高度化に伴い過密化しているカリキュラム

大学の急増などにより，実習施設の確保が困難

2) 今度の人材養成のあり方

基本方針：あらゆる場，あらゆる利用者のニーズに対応できる応用力のある国際性豊かな看護系人材の養成を目指す

保健師教育は，大学による選択性の導入を可能とする

（保健師・助産師を含めた教育を学士課程で実施する場合は，学生の高い学習意欲，適切な教育課程や教員数，実習施設の確保により，質の高い保健師・助産師教育を実施できる体制が整備されているべきである。）

3) 今後の課題

- * 新たな看護学基礎カリキュラムの具体的な内容
- * 大学院における高度専門職業人（保健師・助産師を考えている）養成のあり方
- * 長期的には，指定規則の学士過程のカリキュラム構築に対する影響などの問題点を明確にし，質を担保する新たな仕組みを検討することを期待する。

14 日 11：00～

菱沼典子（聖路加看護大学看護学部長）

『大学教育におけるカリキュラムの展開の考え方』

看護師養成課程の 23%が大学。2 年課程養成所が 25%近くを占めている。

平成 10 年から 20 年にかけて大学数が 2.5 倍になり，100 校の増設。

（教育者の準備は行われていなかった）

大学での看護学の教育について

カリキュラムを考える など

テーマ別グループワーク

展開専門科目（講義・演習）の実施方法を工夫したカリキュラム

臨地実習施設との連携や臨床講師活用を導入したカリキュラム展開

一般教養科目の充実や専門科目との関連を考慮したカリキュラム展開

上記3つのテーマ別のグループワーク

導入と、各グループで共通して検討された内容

【各大学での現状や問題点の抽出

どのような教育が必要かの検討・・・ミニマムエッセンシャルズの設定の必要性】

グループ別検討内容

展開専門科目（講義・演習）の実施方法を工夫したカリキュラム

- ・領域を超え、4年間通しての技術演習カリキュラムを工夫している大学の具体的な展開を紹介
- ・実践する為の課題
 - ・教員の共通認識の必要性（領域間・教員間の目標の共有と相互理解の必要）
 - ・教員力の向上
 - ・臨床との連携の強化
 - ・教育方法（演習項目など）の精選

臨地実習施設との連携や臨床講師活用を導入したカリキュラム展開

- ・看護実践能力の獲得には、大学の教育目標と同時に、学生個々が「自分の目標」を持ち、それを臨床と連携して教育してゆく視点で考える。
- ・臨床講師の活用・・・早期から大学の講義に参加する形態を考える。臨床講師の育成の必要。
- ・臨床との距離を縮める・・・大学の教員が外来で相談外来を立ち上げた
- ・人事交流のシステム作り

一般教養科目の充実や専門科目との関連を考慮したカリキュラム展開

- ・一般教養科目の考え方として、専門にひきつけた教養になっているか
- ・一般教養を学習する動機付け
- ・教養科目の配置（楔形、カリキュラムアドバイザーの設置）
- ・課題は、アウトカムの設定、教員の意識

報告者 田嶋 長子